

# EU Indicators

## 欧州経済指標コメント：10-12月期ドイツGDP（確報）

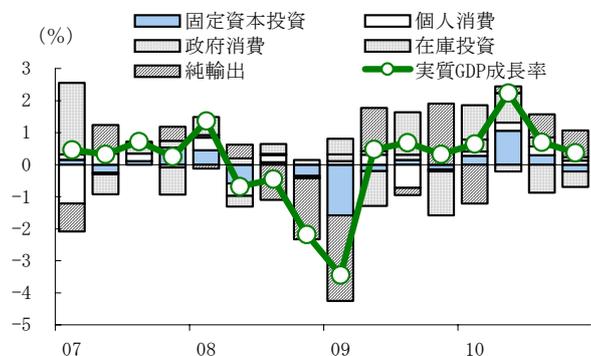
発表日：2011年2月28日（月）

～物価高による実質購買力の目減りも、雇用・所得環境の改善でカバー～

第一生命経済研究所 経済調査部  
主任エコノミスト 田中 理  
03-5221-4527

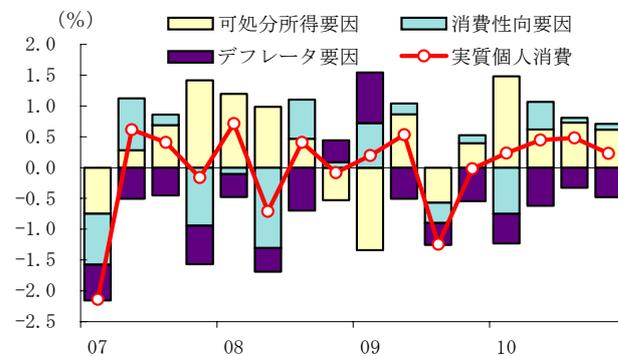
- 既報の通り、昨年10-12月期のドイツの実質GDP成長率は前期比+0.4%、同年率+1.5%と、前期から一段と減速した。17日に明らかとなった需要項目別の内訳によれば、外需が3四半期連続のプラス寄与と引き続き景気を牽引するなか、①天候不順の影響から建設投資が大幅に落ち込んだこと、②在庫復元の一巡から在庫投資が2四半期連続のマイナス寄与となったこと、③物価高による実質購買力の目減りから個人消費の増勢がやや鈍化したこと、などが響いた（左図）。
- 1-3月期入り後も企業景況感が東西ドイツ統一後の最高水準を更新するなど、景気は堅調な拡大基調を続けている。10-12月期の景気を下押しした建設需要の反動増も、年前半の成長率を押し上げよう。2010年の高成長を牽引した要因（内外の在庫サイクル、設備投資のペントアップ需要、世界景気のV字型回復、景気対策効果の残存、ユーロ安、金利低下）の幾つかは剥落ないし縮小が予想され、昨年前半のような予想を上回る高成長は期待できない。それでも、①輸出拡大が続くなか、企業の財務状況も健全で、設備投資の増勢が続くとみられるほか、②物価高による実質購買力の目減りが予想されるものの、雇用・所得環境の改善を受け、個人消費も堅調な伸びを維持する公算が大きい（右図）。

■ドイツ：実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：ドイツ連邦統計局

■ドイツ：実質個人消費の要因分解（前期比）



出所：ドイツ連邦統計局

■ドイツGDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目GDP	実質GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
09/1-3月期	▲ 11.2	▲ 13.1	(▲ 2.8)	0.8	4.5	▲ 27.6	(2.0)	(▲ 10.3)	▲ 35.0	▲ 19.7
09/4-6月期	3.0	1.9	(▲ 3.5)	2.1	2.4	▲ 4.1	(▲ 4.3)	(5.5)	▲ 5.3	▲ 17.2
09/7-9月期	4.9	2.8	(3.7)	▲ 4.9	3.4	3.1	(5.4)	(▲ 0.9)	13.4	17.3
09/10-12月期	1.4	1.3	(▲ 6.6)	▲ 0.1	▲ 1.1	▲ 3.0	(▲ 5.4)	(7.8)	11.2	▲ 6.2
10/1-3月期	3.2	2.6	(7.4)	1.0	7.7	5.9	(4.4)	(▲ 4.8)	9.1	23.9
10/4-6月期	9.6	9.2	(8.4)	1.8	▲ 4.1	24.0	(3.7)	(0.8)	34.0	35.6
10/7-9月期	3.3	2.8	(▲ 0.1)	1.9	6.0	6.2	(▲ 3.5)	(2.9)	11.1	5.6
10/10-12月期	1.4	1.5	(▲ 1.9)	0.9	2.3	▲ 4.1	(▲ 1.9)	(3.3)	10.2	3.8

出所：ドイツ連邦統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。